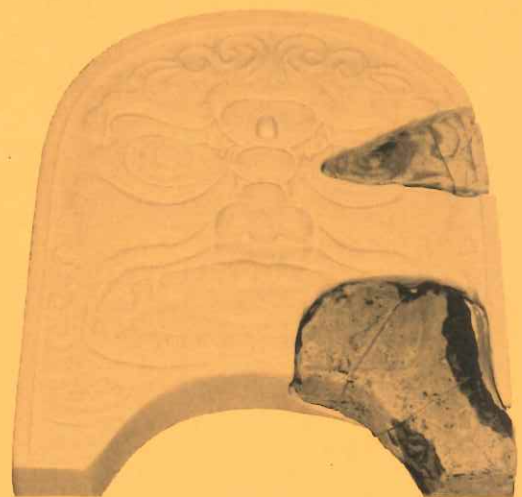


邪悪なものはらう鬼瓦

展示している鬼瓦は、南あわじ市松帆古津路に所在した^{かのど}叶堂城跡の発掘調査で見つかったものです。しかし、この鬼瓦は城にまつわる物ではなく、城が築かれる前にあった^{かんのうじ}感応寺に関連するものだと考えられています。

鬼瓦とは屋根の棟の端に取り付ける飾り瓦です。中国や朝鮮半島からの影響のもと、日本国内で独自に発展します。奈良時代の平城宮や東大寺などで鬼面の鬼瓦が採用されたのを契機として全国に広まりました。

右の写真は、当館テーマ展示室にある小犬丸遺跡（たつの市揖西町小犬丸）で出土した奈良時代の鬼瓦です。古代の鬼瓦は平面的であるのに対し、今回展示している鬼瓦は、鬼の角や耳、鼻などが立体的で躍動感のあるつくりとなっています。この鬼瓦が製作された室町時代には、個性的な鬼瓦が数多く作られるようになり、製作者の名前なども刻まれました。屋根の上でこのような迫力ある鬼瓦がにらみをきかせていると、邪悪なものも怖くて近づけそうにありません。



鬼瓦 小犬丸遺跡出土 奈良時代



鬼瓦 叶堂城跡(感応寺跡)出土 室町時代

当館では、10月2日(土)から特別展「屋根の上の守り神—^し鷗尾・^{しやちほこ}鯨—」を開催します。鷗尾・鯨も鬼瓦と同じく、建物に置かれた屋根飾りです。展覧会では、寺院や城郭に使用された鷗尾・鯨の変遷とそこに込められた想いを紹介します。ご期待下さい。

(学芸課 松岡 千寿)